

平成 29 年 8 月 28 日

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

| | | | |
|--|----------------|----|-------|
| 所属名 | 薬事衛生課 | 氏名 | 遠藤 章聖 |
| 派遣先 団体名 | 特定非営利活動法人ほっと大東 | | |
| <p>① 研修の日時 平成 29 年 8 月 21 日（月）～平成 29 年 8 月 25 日（金） 8:30～17:15</p> <p>② 研修の内容（できるだけ詳しく記載してください。） 別紙「復命書」のとおり。</p> | | | |
| <p>③ 研修の感想 （研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想（研修前後における意識の変化）等について記入してください。） 別紙「復命書」のとおり。</p> | | | |
| <p>④ その他特記事項 （※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。）</p> <ul style="list-style-type: none">・研修生は、研修施設に受け入れられている立場とはいえ、現場研修では現場で混ざって職員と同じ作業をするだけでなく、ある程度職員や子供たちから距離を置いて第3者的な側面から得られるものもありますので、その時間を確保された方が良いでしょうと思います。・休憩時間の確保について、現場責任者と話し合っておいた方が良かったです。・児童と接触して怪我をさせた場合のフォロー（短期保険等）を明確にしておいた方が良いでしょうと思います。 | | | |

（注1）研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。

（注2）報告書は、平成 30 年 1 月 31 日までに人事課あてにメールで提出してください。

復 命 書

- 研修参加施設：NPO 法人ほっと大東ちゃれんじクラブ (旧大東幼稚園舎内：大東小学校に隣接)
- 研修参加日時：平成 29 年 8 月 21 日 (月) ~25 日 (金)

上記研修に参加したため、本書のとおり復命します。

■内 容

8 月 21 日 (月) 天気：快晴 児童数：44 名

- ~ 9:00 学習会
- ~ 9:30 オリエンテーション
連絡事項 (自己紹介、一日の流れ説明、注意事項説明、点呼、絵本の読み語り、プール等確認)
- ~ 9:40 プール準備
(説明、体操、プールへ移動、着替え)
- ~11:40 プール (20 分入水+10 分休憩を 3 セット)
(1,2 年生は小プール、3 年生以上は大プール)
- ~12:30 昼食
(弁当持参)
- ~12:40 おやつ準備
- ~13:30 DVD 鑑賞 (おおかみこどもの雨と雪)
- ~16:00 NPO 法人ほっと大東について、資料等を用いた口頭説明
- ~17:15 遊び (室内外)

午後には、小学校近くの橋梁にかかる温度計が 36°C を示す猛暑の一日。

職員は、全員で 7 名。全員が臨時職員であり、勤務体系はシフト制とのこと。小職が研修に参加する日には夏季休暇期間中であり、児童の出席者数も多いと説明を受けた。職員は、全員幼児教育の経歴をもつ人達から構成されており、児童には「先生」と呼称されていた。

児童は、それぞれ海潮小学校、大東小学校、阿用小学校、西小学校及び佐世小学校の生徒を受け入れている。

オリエンテーションでは、休日に職員が草刈り後の集積した草から出てきたスズメバチにより左の腓腹筋上部が刺されたところから現在に至るまでの経過を話ししていた。本件を受けて、児童達には、これから秋にかけて蜂の活動が活発になること、蜂は黒色をめがけて襲撃する習性があることを伝え、蜂の姿を見かけたら速やかに職員まで報告するように求めると共に、絶対蜂に近寄らないよう啓発していた。

建物内には、オルガン、ピアノ、漫画や図鑑といった書籍、IaQ や LEGO 等のブロック、リバーシ、カードゲーム、パズル、将棋といった様々な遊戯具があり、どの児童もできる範囲で思いのままに過ごせる手段が数多く準備されていた。

基本的には、同学年同士で固まるが、上級生も下級生と一緒に遊んでいた。

一昨年までは、午後すぐに冷房の運転が止められていたが、昨今の猛暑を受けて終日冷房を稼働できるようになった。小学校でも、教室に冷房が設置されているとのこと。

8月22日(火) 天気:晴れのち曇り 児童数:46名

- ~ 9:30 NPO ほっと大東について、資料等を用いて現場ツアー
(ツアー先: デイサービスほっと、デイサービス新庄)
- ~ 9:40 プール準備
(説明、体操、プールへ移動、着替え)
- ~ 11:40 プール (20分入水+10分休憩を3セット)
(1,2年生は小プール、3年生以上は大プール)
- ~ 12:30 昼食
(弁当持参)
- ~ 12:40 おやつ準備
- ~ 13:30 DVD鑑賞 (あたしん家)
- ~ 15:30 おやつ
- ~ 17:15 遊び (室内外)

曇天になる時間帯もあったが、前日から引き続き暑い日が続く。児童もプールでの水遊びが良いクーリングとなっているようであった。

大東小学校には、午前中にチャレンジクラブの利用を認めてもらっている状況。

児童は指導の賜物かプール内でアクロバティックな行動はないが、職員は水中事故が起こらないように神経を尖らせている。

職員も集団となった4年生男子及び5年生男子には手を焼いている様子。職員が女性のみで構成されているため、叱っても響かないことも多いと話されていたが、当該現場が学校と自宅をつなぐ児童達の受け皿という意味でも学校教育とは一線を画す場所であることを初めて悟った日であった。

8月23日(水) 天気:快晴 児童数:38名

- ~ 9:00 学習会
- ~ 9:30 オリエンテーション
連絡事項 (一日の流れ説明、注意事項説明、点呼、絵本の読み語り、プール等確認)
- ~ 9:40 プール準備
(説明、体操、プールへ移動、着替え)
- ~ 11:40 プール (20分入水+10分休憩を3セット)
(1,2年生は小プール、3年生以上は大プール)
- ~ 12:30 昼食
(弁当持参)
- ~ 12:40 おやつ準備
- ~ 13:30 DVD鑑賞 (ポケットモンスター)
- ~ 15:00 チャレンジまつり準備
- ~ 15:30 おやつ
- ~ 17:15 遊び (室内外)

湿度も高く、外に出れば汗が止まらないが、プール入水者には快適な環境。

本日、ちゃれんじクラブの敷地に隣接する認定こども園の園児（3~5才）も一緒に小プールを利用。園の先生に付帯して遊泳する子、そしらぬ顔で自由に動き回る子様々であった。

大プールでは、唯一プールに参加していた3年生男子と複数名で遊んでいた4年生男子との間で衝突があった。4年生男子が3年生男子に対して、“お前のことが嫌いだ”と直接発言したことが3年生男子の心情を気傷付けたようであった。すぐさま異変に気付いた職員が仲裁に入り、それぞれの児童から事情聴取並びに4年生男子に説諭と詫びを促し、事が収束した。

その後、3年生男子は再度プールで泳ぎ始め、時々4年生が遊んでいた“だるまさんが転んだ”の輪に混ざって遊んでいた。

本日がちゃれんじクラブがプール利用できる最終日とのこと。参加園児及び児童がそれぞれの着水や遊泳技術を披露した。小学校2年生で平泳ぎ、小学校3年生でバタフライを披露している児童もあり、園児や先生も驚愕していた。

プールでは職員とは別途一人監視している方が付いていたため、その方からのご挨拶と児童からのお礼の言葉があった。

8月24日（木） 天気：快晴 児童数：38名

~ 9:00 学習会

~ 9:30 ちゃれんじまつり準備

（大東小学校体育館に資材搬入並びに館内の扉・窓を全て解放、）

~10:00 オリエンテーション

（点呼、絵本の読み語り、ちゃれんじまつりのチーム色分け）

~12:00 ちゃれんじまつり第一部

（開会式、お手玉リレー、クイズ、色別対抗リレー）

~12:30 昼食

（弁当持参）

~12:40 おやつ準備

（から揚げ、ウインナー、氷調達）

~13:30 DVD鑑賞・室内遊び

~15:00 ちゃれんじまつり第二部

（クイズ、喫食、閉会式）

~17:15 遊び（室内外）

ちゃれんじまつりによる運動で、事件や事故、脱水も心配される1日。

普段の平常業務の中で、この日のためのタイムスケジュールの作成からチーム編成まで、職員が連日頭を悩ませていた。また、当日は、欠席者がいたことからチーム編成にも臨時の対応を求められることとなったが、うまく対応されていた。

チーム編成時にリーダー・サブリーダーに選出した児童が適任であり、低学年の面倒や競技指示の対応等、積極的に自分の役割に努めていた。最後まで何事もなく日程を終えることが出来たことに併せて、報酬（おやつ）を頬張る児童の姿をみる職員に安堵の表情を見た。

全学年を通じて行う競技の選択は難しいが、色別対抗リレーではどの子も間違いなく燃えていた。

8月24日(金) 天気:雨のち晴れ 児童数:38名

~ 9:00 学習会

~ 9:30 オリエンテーション

連絡事項 (一日の流れ説明、お礼挨拶、大東小学校教頭挨拶、点呼、絵本の読み語り、プール等
確認)

~11:40 遊び(室内外)

~12:30 昼食

(弁当持参)

~12:40 おやつ準備

~13:30 DVD鑑賞

~15:30 おやつ

~17:15 遊び(室内外)

朝から東部の空に灰白色の雲がかかっており、午前中にわか雨があるも午後からは晴天が広がる一日。

宿題は、大半の児童が終了しているようであった。

降雨のため、蝉取りや一輪車で遊んでいた児童も急ぎよ屋内避難することになり、残念そうな表情を見せていた。

児童が館内へ雨水が浸み込んでくることを職員に通報。これを受けて、職員が雲南市に連絡し、来館した雲南市職員が屋根から樋の状況を確認したところ、樋に土砂がだいぶん溜まっていることから樋で受けきれなくなったと説明を受けていた。業者を手配することで一旦落ち着いたが、施設自体も築後30年超で落屑等、劣化があり、随時修繕や対応を求められているとのこと。

預け事業で自分たちの及ばないことが起きたことを憂慮しておられた。

(小山理事長からの説明)

- ・NPO法人ほっと大東は、もともと雲南市立病院で勤務していた有志の看護師を中心に住民参加型ボランティア団体として立ち上げたもので、現在に至るまで看護師の確保も雲南市立病院からの人軸によるところが大きい。
- ・事業は、大きく介護保険事業(居宅介護支援事業、指定通所介護事業、指定認知症対応型通所介護事業)とその他事業(福祉有償移送サービス、ミニデイサービス、助け合い活動及び今回のちゃれんじクラブも含めた子育て支援事業)の2本柱から構成されている。
- ・現在展開している事業では、介護保険事業による収益性が高いが、度重なる報酬改定に事業運営にも金銭的な負担が増してきており、平成30年には、診療報酬及び介護報酬の同時改定も6年ぶりにあり、先行きがますます暗くなる。2015年の介護保険法改正に伴い、要支援1・2の者に対して、地域支援事業として市町村が主体となり、現在は市の委託事業も受けているが、この先金銭的・人的に受け入れられるかどうか分からないということであった。
- ・資金確保の為に提出する書類も複雑怪奇であり、事務現場に負担を強いるものばかり。
- ・看護師の確保も人軸では難しい昨今となってきており、大々的に求人募集を打ち出すようになった。
- ・ちゃれんじクラブでいうならば、施設の老朽化も大変に問題であり、収益性のない企業ボランティア精神で行っている事業であるから、子供の安全確保のためにも施設の修繕には雲南市に対しても強く資金投入をお願いしているところである。
- ・NPO法人ほっと大東が社会福祉法人化しない理由は、設立当初の主旨目的と収益後の納税という精神

に基づく。社会福祉法人化すれば、税制メリットが大きいことから、介護保険事業を展開している事業主体には社会福祉法人が多いが、もし今の NPO 法人を社会福祉法人にすれば、事業継続の負担軽減の一助となる一方で地域に還元されない金銭が出てくる。社会福祉に係る収益は、納税して還元されるべき性質のものであると考えているので、他の社会福祉事業所にも同じような思いでいて欲しい。

(全体を通して)

- ・現場では数多い児童の名前を覚え、丁寧に声掛けされる姿に職員の愛情を感じました。
- ・地域を形成するのは人、子どもは地域の宝と思いました。
- ・人が中心で人が介在する社会福祉の主導は、行政主導ではなく現場でなくてはならないことを改めて痛感しました。
- ・業務上、小山理事長の言われることは、至極最もであるが、社会福祉法人化しない精神には頭が下がる思いでした。国をはじめとする行政は、新規モデル事業には予算を付けますが、その事業は予算が維持しつつ目的を達成するもの、予算が縮小して目的を達成するもの、予算ベースの事業展開しかみられていないと思います。痛みを伴う改革の負担は、真っ先に地方の現場へかかり、良心で動いている当該事業所のような施設はあっさり破たんしてしまうと思います。県でもこども支援課のみならず企業局や商工労働部の各セクションから継続的な事業運営の助言ができないか探索してみようと思いました。

■写真



プール風景



掲示物



児童が掘った砂場